

Super GT Round 6 応援ありがとうございました！



Super GT Round 6 Report

Date : 2017 年 8 月 27 日 Event : Super GT Round 6 Team : JLOC Class : 300class

Driver : 織戸学 平峰一貴 Car : Lamborghini Huracan GT3 Circuit : 鈴鹿サーキット

Free Practice 9:20-10:55

- ・ Car Balance Check Tire MH Compound

今回は今までとは全く別次元の S/U で持ち込んでいました。シンプルにヨーロッパで使用している S/U。

R/H もかなり高く特に Rr に関して言えば、今までより遥かに高い。

実際に走ってみてロールセンターが高くなった事により、車の動きは大きくなったが Grip 感はしっかりしている。いつもだと Rr が唐突にスライドしてピーキーな動きが、とても落ち着いていて Rr が路面に対し吸いつくように感じました。その影響もあって車は U/S 傾向。Fr R/H を 1T Short。

Fr の反応はしっかり感じれ、若干 O/S 傾向になりましたが、予選の向けて非常に良いバランスとなりました。

Q1 平峰一貴 P4 Time 1`59.170 Q2 織戸学 P11 Time 1`59.514 総合 P11

- ・ Q1 を担当 MH Compound

出だしからタイヤは Grip を感じ、直ぐにでもアタックラップに入れるような感触でした。

しかし、タイヤの内圧がアタックに入るには十分に上がり切っていなかったため、グリップを失わない程度にタイヤを丁寧に温めました。

- ・ Attack Lap

反省点としては、Warm up Lap 中に若干 Rr の Grip を使ってしまったのかなと思いました。

タイヤの内圧を上げる為にコーナー出口で少し高い回転域で立ち上がっていたので、それが影響していたのではないかと考えています。今回のケースの様な場合だとヘアピン立ち上がりから、温めても問題なかったと思います。次に同じような条件になった場合は、そのサーキットの特性などを瞬時に考えてタイヤの Warm Up を行います。

1000km Race P2 Stint 順 : 織戸学→平峰一貴→織戸学→平峰一貴→織戸学→平峰一貴

- ・ 第 2 Stint を担当

とにかく前を走るライバルを抜く事に集中していました。何度かヒヤッとする瞬間もありましたが、接触もなく順位を着実に上げて行きました。

- ・ 第 4 Stint

他車のクラッシュにより Safety Car が導入されました。H Compound を選択していたため、一度温度が下がってしまうと、温まるまでに時間が掛かってしまうので、レース再開までタイヤの表面を冷やさないようにしました。またタイヤが冷えた状態でコーナーを攻めると、タイヤの表面が綺麗に摩耗しなくなるので十分に気を使って温めました。Safety Car 解除後にタイヤの Grip 感もキープ出来た事で、前のライバル勢を抜けたのと、周回遅れの車両を素早く対処することが出来ました。

- ・ 第 6 Stint を担当

この時には路面温度が下がった事で MH Compound で行けると Yokohama Tire さんと決断し 4 本交換を試みました。各 Stint で順調にポジションを上げていけた事で最終 Stint を迎え Pit Out した時は 4 番手。前には同チームである #87 号車が 3 番手を走行していました。前とのギャップはストレート 1 本分。正直なところかなり遠くに感じたので、追いつくまでに「タイヤをセーブされていたら厄介だな」と思っていました。

しかし、ここは勝負をかけるしかないと思われ、勝俣エンジニアと決断し、死ぬ気で攻めました。すると、#87 号車に対して 1 周 1.5~2 秒速いペースで走る事が出来 8 周目に追いついて、シケインでオーバーテイク。

Pit Out して内圧が低い状態からプッシュしていたので、#87 号車をパスした後は後ろとのギャップを見ながら、タイヤマネジメントとタイムを落とさないように走りました。特に 500Class の処理には十分に気を使いました。序盤にフルプッシュした事で、後半 4~5 周でタイヤの Grip ダウンが気になり始めました。特にヘアピンからの立ち上がりは T/C が落ちていたので、S 字区間、デグナー 2 つ目出口、130R と Rr タイヤを気遣って走りました。また、3 番手を走行中に 2 番手を走行中だった #25 号車が脱落し、3 番手から 2 番手に浮上。ラスト 2 周は、Rr タイヤから異音が始めていたため、ヒヤヒヤしていましたが何とかゴールまで持たせることが出来、2 位でチェッカーを受けました。

Summary

Super GT Rd6 鈴鹿 1000km を 2 位で終える事が出来ました！周りとのペースを見ていると、厳しい戦いになると予測していました。しかし、メカニックの懸命な作業やピットストップ、ストラテジーも常に良い方向へと進んでいました。最終 Stint を担当する前にモニターで自分たちが表彰台圏内に入れそうだった時は、ここで集中を切らさず、常にベストを尽くすんだと気持ちを整理して全力でプッシュしていました。チームにはチェッカーまでの周回数だけを無線で聞き、その後の無線での会話をやめ、チェッカーまで集中を切らさず走り切りました。何故かラスト数周はなかなか経験できない冷静さを保っていましたし、肉体的には余裕を持って終える事が出来ました。人生の中でなかなか経験できる瞬間ではなかったと思います。ここまで厳しい戦いが続いていただけに、本当に嬉しいです。沢山の応援に心から感謝しております。次戦は Rd7 タイとなります。良い結果が残せる様にチームと力を合わせて、準備を進めて行きます。引続き応援宜しくお願い致します！